

1

ポイント

仏さまのすがた



▲ 法華堂根本曼荼羅図 (部分)
奈良時代 8世紀



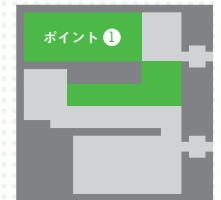
▲ 弥勒菩薩立像 (部分)
快慶作 鎌倉時代 文治5年 (1189)



お釈迦さまが、仏教の大切なおしえをお話しているところよ。
この絵はなんと奈良時代(約1300年前)にかかれた古い絵。でもとっても大きい画面で、色もあざやかなのはビックリ。



快慶さんは、鎌倉時代のはじめ(約800年前)に活躍した、有名な彫刻家。
どこの整ったお顔、すらりとした美しい仏像は、快慶さんならではの。



▲ 山水図 (部分)
祥啓筆 室町時代 15世紀末~16世紀初



▲ 松に麝香猫図屏風 (部分)
伝狩野雅楽助筆 室町時代 16世紀中頃

近くのは濃い墨、遠くのは淡い墨で描いて、遠近感を出しているのわかるかしら？



岩や松の木、遠くの景色は水墨画。でも植物や動物にはきれいな色が。こうして水墨画に墨以外の色をくわえる描きかたは、狩野さんという画家のグループの特ちょうなのよ。

ジャコウネコは、いいにおいを出すねこんだほー！



2

ポイント

水墨画

鎌倉時代(約800~650年前)に中国から伝わった水墨画。墨を濃くしたり、淡くしたりして使い分け、絵をかく技法です。日本の画家たちは中国の水墨画に学びながら、時には日本的なテーマを描いたり、墨以外にも色を使うなど、日本ならではの水墨画をかくようになっていきました。

